

「大阪湾岸道路西伸部」をご存じでしょうか？



- 大阪湾岸道路は神戸～大阪～関西国際空港をつなぐ延長約80kmの自動車専用道路です。このうち、神戸港周辺の“西伸部”（六甲アイランド北～駒栄）は未開通で、現在整備が進められています。
- 並行して神戸を東西に走る「阪神高速神戸線」は、全国都市高速道路の中で渋滞による損失時間が最も多い路線であり、JCT区間別渋滞ランキングで全国ワースト1位となるなど、慢性的に渋滞が発生しています。
- 大阪湾岸道路西伸部の整備によって、こうした大阪湾沿岸地域の幹線道路の交通集中の軽減や、都市の活力向上が期待されています。

神戸港にかかる海上長大橋・大阪湾岸道路西伸部について市民の関心や愛着を高めたい！

- 神戸港においては、“みなと神戸”にふさわしい世界に誇れる景観を創出する道路”を計画コンセプトの一つとして、「神戸の都市景観との調和」「シンボル性」「ランドマーク性」にも配慮した海上長大橋を建設予定です。この橋は、海面からの高さ213m、幅2,739mの4主塔連続斜張橋であり、世界最大規模のビッグプロジェクトとなっています。
- 一方で事業内容が市民のみならずにはうまく伝わっていないのではないかと阪神高速は考えました。そこで、神戸港が身近な地元大学である神戸大学といっしょに、市民の関心や愛着を高めるための共同研究を行うことになりました。

共同研究の内容

- 2022年度のスタートから、建設現場見学や神戸大学教員による講義、グループディスカッションを通じて、様々な検討を行っています。

海上長大橋の市民PRについて考える

「海上長大橋の愛称」と市民PRについて考える

神戸港にかかる海上長大橋の社会的意味を考える

学生の声

参加のキッカケ

将来は街づくりに携わりたいと思っているので、そのために必要な知識や考え方を身につけられればと思った。

地元で建設される斜張橋のPRを考えるという、今、神大でしかできない共同研究に参加したいという強い気持ちがあった。

橋、道路に興味があり計画から出来上がりまでの流れを知りたかった。

実際に働いている人たちの雰囲気を知りたかった。

専攻が異なる学生と講義を受けられるので、自分の視野が広がると思った。

印象に残ったこと

実際に現場見学をし、施工者の方の話を直接聞いたことで、どのような橋梁が出来上がっていくのか想像しやすかった。

参加した他の学生の発表を聞いて、自分では考えもしなかった視点を得られた。また自治体や教授の方々から貴重な感想やアドバイスをいただき、新たな発見を多く見つけることができた。

都市計画の作成、効果検証、地域住民の方との協議、土地の条件に合わせた構造設計など、市民から見えない裏側に長年の積み重ねがあることが分かった。

物流の効率化や都市景観に与える影響を考察する中で、長大橋や高速道路の開通が地域の経済や暮らしに大きく貢献することを知った。

また、ただ便利になればよいのではなく、近隣からも愛されるよう、その町や地域にふさわしい景観にも気を配ることが重要になるという視点を持った。